

実力発揮の初優勝

九州アマ、九州オープンに次ぐ3個目の九州タイトル

《第56回九州シニア選手権競技》

～九州ゴルフ倶楽部小岱山コース

通算3アンダー 141

大倉 清（浮羽、65歳）



初優勝と言っても、特別な感慨はない。「やっぱり優勝はいいね。久しぶりに自分のゴルフができた」とにこやかに笑った。

九州を代表する実力者。それは誰もが認める。1990年に九州アマチュアで勝ち、2005年には九州オープンでプロを抑えてアマチュアとして初めて頂点に立った。日本ゴルフ協会（JGA）のナショナルチームの一員として名前を連ねた時期もある。しかし、家業（博多織）などの関係で競技ゴルフと少し距離を置いた頃もあって、優勝争いも少なくなっていく。「嫁から『何もしよらんのに優勝する訳がない』と言われてね」。その一撃が大倉のやる気に火をつけたかどうかは分からない。ただ、今年は6月の九州ミッドシニアで3位タイに入り、今回が初Vと結果を出している。

やる気の証明として今大会前に週1回の練習ラウンドを4度。練習場にも週2～3回通い始めた。「運動不足だし、練習後はすぐ眠れる」と言うが、それも競技へ気持ちが入ってきたのではないか。パターも替えた。16日の第1ラウンドに初めて使用して4アンダー68のスコアをたたき出す。「初日はパターに助けられた」と好感触を得た。

最終日は「昔みたいなアイアンが打てた」と自画自賛のショットを披露した。2番でボギーが先行したが、4番ショート（170ヤード）を6IでOKバーディー。6番ロング（511ヤード）では第2打を3Wで左OBしてダブルボギーとしたが、打ち下ろしの7番ショート（213ヤード）を6Iで右2mにつけてバーディー、続く8番ミドル（363ヤード）でもセカンドを50cmに寄せて連続バーディー。前半を折り返した時点で最終日に同じ4アンダーでスタートした合原豊（皐月）との差は「3」に広がった。大倉は後半のインをバーディーこそなかったものの、1ボギーにまとめて、そのまま逃げ切った。



最終組の同伴競技者の2人はともに今年シニアデビューで、大倉とは10歳も年下。当然ながら体力差はあるが、「10歳違うなんて思わない。競技に年齢は関係ない」とプライドをのぞかせる一言を放った。ただ、学ぶ点もあった。加藤重成（大分中央）は出だしの3ホールをいずれも3パットのダボ、ボギー、ダボの5オーバーでスタートしながら、必死に耐えて75で上がり、結局2位に食い込んだ。「ゴルフは分からん。辛抱せないかん、ということやね」と後輩の健闘を称えた。

日本シニアは10月28日から3日間、すでに出場権を得ている日本ミッドシニアが11月5日から2日間と2週連続で開催される。「続けてあるね」と短いセリフしか発しなかったが、燃えるものはある。



初優勝の大倉(中央)と上位選手

《九州ゴルフ倶楽部小岱山コース》

